

阪神・淡路大震災時、「被災者の心のケア」のパイオニアとして奮闘しつづけた精神科医のヒューマンドラマ

心の傷を
癒すということ

劇場版

映画「心の傷を癒すということ」製作委員会
2020年製作 日本

2022年

1月29日(土) 10:30 / 14:30 / 18:00

※20分前開場 (116分)

ラストホール

2階 多目的ホール

一般:800円 障がい者・高校生以下:600円 (当日各200円増)

〈販売・お問合せ〉 TEL 072-781-8877

ラストホール (伊丹市立生涯学習センター)

〒664-0865 伊丹市南野2-3-25





「被災者の心のケア」のパイオニアとなったひとりの若き精神科医の、被災者の「心」に寄り添う壮絶な日々と彼を懸命に支えた家族との「絆」を描く感動のヒューマンドラマ。阪神・淡路大震災発生時、自ら被災しながらも、他の被災者の心のケアに奔走した若き精神科医・安克昌は、震災後の心のケアの実践に道筋をつけ、日本におけるPTSD（心的外傷後ストレス障害）研究の先駆者となった。

在日韓国人として生まれ、志半ばでこの世を去った精神科医・安の遺族関係者への取材をもとにしたオリジナルストーリー。



～あらすじ～

在日韓国人として大阪に生まれ育ち、自分が何者なのか悩んでいた青春に精神科医の永野良夫(近藤正臣)の著書に感銘を受けた安和隆(柄本佑)は、永野のいる医学部に進み、精神科医への道を歩む。ある日、映画館で出会った女性・終子(尾野真千子)と恋に落ち、結婚。温かい家庭を持った和隆は、全国から訪れる患者たちにも温かな眼差しで寄り添い、34歳で医局長となる。

1995年1月。大地震が起こり、和隆が勤める神戸の大学病院は患者で溢れ返る。精神科医としてできることを探し、避難所で被災者の声を聞こうとするも、なかなか受け入れてもらえない。暴言や泣き声が絶えない避難所、地震ごっこで遊ぶ子供たち……。和隆と離れて暮らしていた終子もまた、他人の心ない言葉にストレスを抱えていた。

人は傷つきやすい。被災者たちと向き合い、精神医療の大切さを改めて実感した和隆は、新聞記者の谷村英人(趙珉和)からの依頼のもと、精神科医としてのエッセイを連載し、それを1冊の本にまとめた。そんな中、和隆にがんが見つかる。がん治療を受けながらも、医師として診療を続けようとする。和隆がたどり着いた、本当の「心のケア」とは――。

～キャスト～

柄本佑(えもとたすく)、尾野真千子、濱田岳、森山直太郎、内場勝則、近藤正臣 ほか

お問 合 せ



ラストホール TEL 072-781-8877

<火曜休館>

<https://www.lustrehall.com>



主 催

公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団 / ラスタホール
伊丹市教育委員会



〒664-0865 伊丹市南野2-3-25

○新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、日程変更または中止となる場合がございます。
○ご自宅を出られる前の検温、来館中のマスク着用をお願いします。
○体調不良の場合は来場を中止していただきますようお願いいたします。